



# お産&子育てサポート

発行・編集  
お産&子育てを支える会  
代表 斉藤 智孝  
編集者 東 直美  
TEL/FAX 090-7103-2240



## 反対咬合(受け口)の仕組みと影響



かみ合わせた時に下の歯が上の歯より前に出ていることを「反対咬合」一般には“受け口”とも言われています。少ないですが3歳児健診で3～4%の割合で見つかるそうです。

反対咬合(受け口)の仕組みの前に赤ちゃんの口の舌の動きの発達をご存じでしょうか? 離乳食と大きく関係しています。生後5～6ヶ月頃の舌の動きは、前後運動が中心で、ドロドロベタベタの離乳食を前後に動く舌で迎え入れ、口を閉じてゴックンと飲み込んでいます。その動きに上下の動きが加わると舌と上あごを使ってつぶすことができるようになります。スプーンの裏で抑えると潰れるぐらいの硬さで少し形のある食べ物が食べられるようになります。そして最後は舌が前後上下に加え左右にも動かせるようになり、食べ物を舌で動かして奥に送り込んで、奥の歯ぐきでかみつぶして食べるようになり通常の食事が食べられるようになります。つまり、食事が上手に食べられるようになるには舌が重要な役割を果たすと言えます。



その舌の先は通常口の中では上の前歯の少し後ろに当たっているのですが、反対咬合の場合は舌が上げられなくて、下顎の歯を押す状態になっています。その影響ですきっ歯になったり、下顎の成長を促し、放置すると下顎の骨が異常に発達することもあるそうです。舌が下がる原因には舌の筋肉が弱かったり、舌の裏の膜状のひだ(舌小帯)が短かい事で舌が上にあがらない等があるそうです。舌は食べる時に重要な役割を果たしているのですが、そのような状態だと食べ物を細かくかみ砕けなかったり、かみ砕いた物を舌の上でまとめて飲み込みにくく、食事に時間がかかったり、消化管に負担がかかります。昔は自然治癒を求めて様子観察が主流でしたが、幼児でも使えるマウスピースが普及しているそうです。食事を摂る行為は一生です。食が健康を作ると行っても過言ではありません。乳幼児健診で反対咬合を指摘されたら積極的に治療することは大切だと思います。健康のためね。



## 少子化対策になるのか? ～出産費用の保険適応化?～

### 少子化の現状は?

近年の少子化は2022年には1年間の出生数80万人を割り、昨年2023年はコロナの影響もあってか国の予想より12年も早まる速さで75.8万人と減少し、出生率は過去最低の1.26となりました。

1990年に出生率が1.57と過去最低を記録し国は危機感を抱き「エンゼルプラン」(1994年)を始めとする少子化対策が本格的にスタートしたのです。国の施策が功を来した故に出生率が低空飛行状態とどまり、お隣の韓国のように0.72までは低下していないのか? 反対に効を来たせず低下の一途と見るかは色々ですが...



5年ごとに実施されている国立社会保障・人口問題研究所の出生動向基本調査によると、理想とする子どもの数は2021年で2.25人ですが、その数に達していない夫婦の最も多かった理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」だったとの事です。国は少子化対策に色んなお金をばらまいていますが、子育て中の夫婦にたいした効果は出てないようです。



### 経済的負担軽減のための「出産育児一時金」の推移は

日本で出産すると自分が加入する公的保険より出産育児一時金として“50万円”が出産した本人、又は出産した医療機関や助産所に支払われます。非常に有り難いシステムで、日本の公的医療保険制度で(企業や団体の健康保険、共済組合、船員保険、国民健康保険)の被保険者であれば、出産した際に支給される手当金です。1994年の健康保険法改正により、それまでの「分娩費」と「育児手当金」を統合して新たに「出産育児一時金」の名称で設けられました。

出産育児一時金は出産に伴う経済的負担を軽減するために支給ですが、1994年の創設当初の30万円が、分娩費用の値上がりにより、約30年後の2023年4月には岸田内閣が力を注ぐ「子ども真ん中社会」の一環で、50万円と約1.6倍の増



額になっています。(グラフ参照)

## そもそも日本の経済状態は



出産育児一時金が約30年間で1.6倍となったのは出産費用の高騰を補うためでしたが、その30年間の日本の経済状況はどうだったのでしょうか？

バブル期(1986年～1991年)の好景気以降経済は低迷しています。出産育児一時金が1994年開始ですが、その少し前の1987年の消費者物価を100としたときに、2022年は120.5となり、35年間で物価は約2割の上昇でした。日本以外のG7(カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、英国、米国)各国の物価は35年間で2～2.5倍前後にもなっています。先進諸国が2～2.5倍と物価が上昇しているのに、日本は2割です。また、国内総生産GDPの10年ごとの平均成長率をみると、高度経済成長を経験した1960年代には9.3%と良かったのですが、1970年代と1980年代には4%程度と低下、そして1990年代には1%にまで低下、2000年代以降は0%台と低迷状態で、それでも世界第3位を誇っていたのですが、昨年はドイツに抜かれ4位に転落してしまいました。GDP低下の大きな原因は少子高齢化による労働人口の減少だそうです。

消費者物価も伸びず、GDPも低迷状態で円安は進み150円台にまでなっています。

## 経済低迷状態で給料は？

経済の低迷は給与にも影響しています。国のデータ図1-8-2平均給与(実質)の推移でもわかるように出産育児一時金が30万円だった1994年の年間給与465.3万円が2018年433.3万円と約30万円減少しています。

そして、バブルの崩壊、リーマンショックの影響で企業

図表1-8-2 平均給与(実質)の推移(1年を通じて勤務した給与所得者)



\* 出産費用の保険適応化がどうなるのか？次号に続きます。ご意見感想等は右のQRコードより



## 5月の予定

- 7日(火) 10:30 ～ マミーハウス
  - 9:00 ～ 鍼灸の日
  - 8日(水) 10:30 ～ ベビーママヨガ
  - 11日(土) 13:30 ～ しあわせお産相談会
  - 13日(土) 13:30 ～ ベビーマッサージ
  - 16日(木) 10:30 ～ 春ランチの会 part2
  - 18日(土) 13:30 ～ お産塾[お産について]
  - 21日(火) 10:30 ～ セルフ整体トレーニング 産後
  - 13:00 ～ セルフ整体トレーニング 産前
  - 22日(水) 9:00 ～ 鍼灸の日
  - 25日(土) 13:30 ～ 八幡ママパパパレッシン(こどもセンター)
  - 28日(火) 10:30 ～ すっぴんまんぷく会
- \* 5月の「太郎坊に登る会」はお休みです



Birth For the Future@しが  
(略:BFFしが) 滋賀をより安心してお産子育てができるように活動している団体  
5月9日(木)10～11時  
高島市の「美松」さんで  
「滋賀のお産をしやべり隊」開催

「助産所の自然なお産写真展」開催  
5月7日(火)～5月19日(日)  
八日市図書館  
5月22日(水)～6月5日(水)  
湖東図書館  
6月以降も県内の図書館を巡回予定

5月20日(月)10:00～  
オーガズミックバース上映会開催  
甲賀市三大寺のトキ折々にて



5月28日(火)  
10:00～11:45  
食の安全について  
～子の健康を守るため～  
『子どもたちの未来のために』をテーマに、日々、安心して美味しく食べられるパンを作られている、東近江市の八幡ダベーカリーの店主 岩崎 裕人(いわさき ますと)氏が「食」についてお話ししてくれます。  
場 所：水口まるむし 1階和室  
参加費：無料 子ども連れOK  
申込み/問い合わせ：  
090-7103-2240 又は あずま  
主催：ははこ(子育てサークル)  
笑顔あふれるコッしが基金の助成金活用事業

おっぱい塾10:00～  
9日(木)八幡ことしん  
21日(火)はちたび広場  
23日(木)安土コミセン  
27日(月)彦根こどもセンター



国は更なる少子化対策として出産費用の保険適用を考えているようですが詳細は未だ不明、国民には公表されていません。高騰する出産費用に歯止め？

経済が低迷し給料が上がっていないこの約 30 年間で出産費用はどんどん高額になっています。出産育児一時金が増額されるとなると、その数か月前から出産費は必ず値上がりするのはどうして？と思いますが、そのような状況下でも、出産育児一時金額内で出産費用を留める努力をする医療機関があったり、地方の物価指数の低い県では一時金以内の出産費用金額になっていると言う現実もあります。

高騰を続ける出産費用が少子化の一要因と考え、その高騰に歯止めをかけるためにまずは 2024 年 4 月には出産施設の費用の見える化を図ろうと働きかけていますが、未だ公表はされていません。そもそも出産は病気ではなく生理的な現象であり公的保険の適用外になっています。帝王切開や吸引分娩は正常産外で保険となり点数が決まられていて増額はできませんが、正常産は生理的なもの、保険点数はなく、医療機関が自由に決められます。その為、都市部と地方、医療機関でも非常にばらつきがあります。

イギリス 国営医療制度のナショナルヘルスサービスを利用すれば、妊娠期の診察、出産、入院などすべて無料。

アメリカ 標準的出産費用 120 万円 帝王切開 170 万円

オランダ 通常出産 40 万円、帝王切開 58 万円

フランス 社旗保障システムの中の医療保険に入っていれば 妊娠・出産すべての費用無料

スウェーデン 私立病院ない。すべての病院が広域行政区の管轄で税金で賄われている 妊娠期の診察、出産、入院などすべて無料。

カナダ 公的医療保険利用で無料